

第1回 南砺市総合計画策定審議会

議事概要

令和元年6月21日（金）13:00～14:30

南砺市福野庁舎2階講堂

次第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ
4. 委員の紹介
5. 会長及び副会長の選出（あいさつ）
6. 諮問
7. 議事
 - ・ 第2次南砺市総合計画策定の進め方（方針）について（資料1）
 - ・ 第2次南砺市総合計画策定の体制（資料2）
 - ・ 第2次南砺市総合計画策定のスケジュール（資料3）
 - ・ 将来像案、目指すべきまちの姿案（資料4、5）
8. 意見交換
9. 次回の審議会日程について
10. 閉会

主な発言（検討）内容

【開会、市長あいさつ】

本日は忙しい中、第1回目となる第2次総合計画の審議会にご参加いただき感謝する。南砺市が誕生して15年、第1次総合計画の対象年次は今年度いっぱいとなっている。南砺市には様々な計画があるが、本計画が最上位計画となる。これまでに南砺市では総合戦略が策定され、地方創生の流れでまちづくりを進めさせていただいたが、南砺市では未だに人口減少が続いている。今後は施策にメリハリをつけて推進していきたい。国の動向として、12月頃に国の総合戦略が策定される予定であり、その後、県や市にどのような指示が下りてくるのか情報収集をしなければならないが、本総合計画が総合戦略も兼ねるという考え方もあろうかと思う。

また、南砺市では道路に関する計画を継続して策定し、メンテナンスや融雪、福祉や農業などの計画も策定しており、本計画とリンクしていく形としていかなければならない。

これまでは基本構想、基本計画、実施計画という3段階構えとなっていたが、これからは今後進めるべき方向性である「ビジョン」と、それを実現するための「行政計画」という2段階構えとしていきたい。

人口ビジョンは、将来の人口計画であり、人口ビジョンの目標に向かって取り組んでいくこととなるが、KPIなど、成果の見える計画としていく必要がある。総合計画の策定には今後、新しい手法で取り組んでいくことが必要であり、産官学金労言、様々なところからご指導を賜りたい。

【会長および副会長の選出】

(会場より事務局案に従うとの意見を受け、事務局より会長に富山大学副学長の中村和之委員に、副会長に南砺市商工会会長の川合声一委員を推薦)

(拍手により承認・選出)

【中村会長あいさつ】

中村会長：富山大学では経済学部で地域経済学や地方財政などを教えている。また、学生の就職指導を行っている。

今回目指す南砺市の総合計画は意欲的なものと聞いている。みなさんの意見を踏まえ策定していきたい。

外から見ていると、南砺市は人・文化など大きなポテンシャルを有していると感じている。私が研究している地方財政に関する研究を希望する南砺市出身の学生は多い。

今回はみなさんから広い立場からご意見をいただきたい。

川合副会長：前期の総合計画の策定の際には座長をさせていただいた。今後、よろしくお願ひしたい。

【総合計画審議会への諮問】

(市長より中村会長へ諮問)

【議 事】

(資料1～5を事務局より説明)

【意見交換】

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

○：今回の文章についてではないが、今回策定するのは第2次計画とのことであるが、第1次計画の評価はどのようになされたのか、また第2次計画にどう反映したのか。

●：今後策定する行政計画において反映させていくことになる。

○：我々は地元で色々なことを見つめ直しているが、高度成長期後の40年は自分さえよければ良いといった時代であり、現在は地域の人と人のつながりが希薄になってい

ると感じている。今では他人の家に行くことが難しくなり、雨の日に、お年寄りの家でお茶を飲むような、かつては当たり前の風景がなくなった。「一流の田舎を目指す」という文章は良いが、現在、かなりの部分で崩壊しつつある地域コミュニティをどうしていくのか。地域の得意分野など、70歳になっても頑張ってもらいたいなど、かつてのつながりを取り戻すようなニュアンスを、現状などでしっかり押さえるべき。今は年寄りが孤立化しつつある。痒いところに手が届くような形にしないとならない。それによりやく気付いて、昔の生活スタイルに戻さなければならないという運動を始めつつあり、それをどのように表現していくのか、真剣に議論していかなければならない。

- ：3段落目に記載のある「しかしながら…」は、書いてある表現はそうであると思うが、一つ抜けていると思うのが、他所からみて評価されることに重きがあるように感じる。「自分達の住む地域が素晴らしい」と、本当に地元が思っているのか。住んでいる人たちに素晴らしいと思ってもらえることが必要であり、埋もれている財産を自ら掘り起こし、共有していくことが重要と考える。住んでいる人達がもっともっと、ここは良いところなんだと、貴重なんだと気づいてもらいたいという旨を、一行挟んでみるとよいのではないかと。
- ：今回の計画は、従来とは違う方向でいくとのことだが、前回の計画においてどのような問題があったのかを把握することが必要である。第1次計画の課題などについて、ちゃんと説明してもらいたい。
- ：委員が言ったような、地域の繋がりが壊れ始めているというのと同じく、農業についても、今後10年で現在できていることも、この先できなくなると思われる。現在地域の特産品と言われているものが、10年後は後継者がいなくなるなど、作物を作れなくなってくるのが想定される。また新規営農者として参入しにくいという状況もあり、「しかしながら…」の中に、今まであった姿が全く変わってしまうのではないかと危機を表現してもらいたい。散居村についても、どんどん木が切られている現状もあり、資料の前段の部分は10年前の姿だったかもしれないが、今、現実になくなってしまふ可能性がある。私は一人暮らしの中で頑張っているが、この生活を何年続けられるのだろうかと思いながら生活している。「これからの10年間は極めて大切…」、との表現は、確かにその通りであるが、現在の表現では覚悟が見えない。
- ：覚悟を持って取り組まなければならない。団塊の世代はあと10年で80年代となり、これらの世代が80歳代となったときに、誰が世話をするのか。今から風景は一変してしまう。子どもには「良い大学に行って世界にはばたけ」、と言ってきた時代もあったが、本当の意味で、真剣に具体論を議論しないといけないと心配している。
- ：旧4町4村、豊かな自然の地域であるということが文面の大半を占めており、南砺市の総合計画であるからそれも大事だとは思いますが、商工業についての表現があってもよいのではないかと。
- ：(1) (目指す将来像) と (2) (目指すべきまちの姿) について、様々な層の意見を全て取り込んでいくとぼんやりしてしまうが、(2) については、現在の4つからさらに数を増やしていけばもう少し方向性が見えてくるのではないかと。人口減少が南砺市で

は最も重要であり、盛り込んでいただければと思う。

- ：「住んでいてよかった」「生まれてきてよかった」などの表現は、裏を返すと全て現状がひっくり返っているのではないか。なぜこうなったのかを振り返ってみるべきである。
- ：一番大事なことは人づくりであり、しっかりと自分の考え・価値観を考えていける人づくりが重要である。また、家庭での教育や地域愛をしっかりと育てることが必要。今はあまりにも、若者も年寄りも自己中心的すぎる。もっと家族をしっかりと、子育てをしている家族を支える、精神的にも支える仕組みづくりをお願いしたい。

団塊の世代は、子ども時代においてとてもよい家庭に育ったと思う。いつか戻ってきたいと思ってもらえる人に育ってほしいと思う。地域の中で、活動できるようなものを目指していければよい。人づくりや子育てができる内容を盛り込んでほしい。子育て層の意見もしっかり聞いて欲しい。
- ：南砺市のすばらしさが凝縮された文章が書いてあるが、子ども達は、南砺市の良さを知らない。地方よりも中央に魅力を感じている。南砺市のすばらしさを教育現場で一生懸命教えるべきである。ただなかなか徹底できない状況にある中、この南砺市を選ぶのは子ども達であり、しっかりと帰ってきてもらえる、「選び」という強い表現とすべきではないか。市民が選ぶ、子どもが選ぶんだということを強調してほしい。
- ：南砺市は良いものが多いが、地域愛や郷土愛などが一番大事である。表現の中に入れてほしい。
- ：私は南砺市に長く暮らしている訳ではないが、人や環境文化など、温かいものが多くあるのが南砺市の魅力であると感じている。そういったものを守りたくても、市民アンケートなどで、課題があって守れないという現状もみられる。維持することが難しくなってきたという現状であり、これからは今までのような仕事一辺倒という社会から、スローライフのような、仕事と家庭と地域社会の両立ができるような生活となることが時代の流れであり、それを実現するために、南砺の良いところと実際の生活を結び付けるために総合計画があると思うので、将来像でも課題として取り上げるべきである。
- ：私も1年ちょっとしか南砺市に暮らしていないが、将来像の前段において、自然や人の良さだけでなく、昨今の動きとして働き方改革やA Iなどの昨今の情勢も苦労して入れているようだが、A Iや働き方改革が今後どうなるのか、まだ分からない中であり、今後は取り組みを発信していくSNSなど、影響力がある取り組みを進めることも重要である。一方で、商工業や農業とのバランスも重要である。「一流の田舎」という表現については、もう一つ私にとっては分かりにくい。
- ：私はケーブルテレビの番組を製作しているが、自然が良い、これから発展していったという南砺市の魅力を発信する番組を制作している。ただ、データをみると、恐ろしいことに、かつてテレビは一家に一台しかなく、家族みんなで見ていたが、今はそれぞれの部屋で見えており、家族の会話がなくなっている時代となってしまう。また、テレビも不要と言われる時代ともなっている。このような中、人とどうつ

ながっていけば分からないという意見もあり、10年後は、どのような状況になっているか分からず、この表現で良いのかという思いもある。10年後の社会づくりを想定するのは難しい時代となっており、例えば「心豊かな暮らし」はどういったものなのか、子ども達へどうやったら分かってもらえるのか考えていかなければならない。

会長：現在提示されている3つのキャッチコピーについて、皆さんの意見を踏まえると、もう少し考えなおすというスタンスがよいのではないかと思うので、次回、再度ご提示いただきたい。

○：将来像を作る際に、様々なことを積み上げされたんだと思う。良いことしか書いていないという意見もあったが、項目ごとに全て課題を出すと際限がなくなる。たとえば家庭教育、郷土愛のほかに土徳、商業、農業などのキーワードは必要。それらに基づいて整理してもらいたい。

○：ビジョンはあまりだらだらと記載してもいけないし、キーワードも過不足なく出す必要もある。次回事務局より提示してもらいたい。

○：いわゆる将来像は英語で言うと「イメージ（像）」であり、それぞれの委員が持っているイメージが大事である。本計画において、それぞれのイメージを結びやすい表現となれば良い。

【閉会】

●：今回いただいた意見を踏まえながら、本日提示した素案を修正し、パブリックコメントを実施していきたい。また、7月28日のローカルサミットのプレイベントとして本計画に関する検討を行うことを予定しており、ぜひお誘いあわせの上、ご参加いただきたい。本日意見を出せなかった方は、随時、事務局へ意見をご提示いただきたい。次回に審議会は、9月の下旬を想定している。その際には、資料の事前配布に努めたい。

以上

